



↑地震による火災のため消火訓練する長島町消防団

「長島町総合防災訓練」

地震を想定した、長島町総合防災訓練が9月4日、蔵之元校区と城川内校区であり、両地区自主防災会や消防団、町職員ら約1500人が参加しました。

この訓練は、東日本大震災を受けて、東シナ海を震源とする震度7、マグニチュード8.2の地震で10メートルの津波が押し寄せ、火災や水難事故が発生したという想定で実施。訓練地区では、防災無線で地震発生が伝えられると、近くの駐車場や公民館などに集まり、海拔10メートル以上にある中学校や自治公民館などに避難しました。参加した住民らは、お互いが迷わないようにロープを握り合うなどして身の安全を確認していました。

小浜港では、8月1日に発足した阿久根地区消防組合の東・長島分遣所の潜水隊7人と同分遣所職員、海上保安庁による水難事故を想定した訓練がありました。津波で人が流され、海に漂流した人やおぼれている人を救助しました。

長島町文化ホール周辺では、火災発生と車中に取り残された人を救助するという想定で実施されました。延焼を食い止めようと長島町消防団全分団による消火活動で手順などを確認しました。また、自衛隊による救助訓練では、車に木や鉄などが挟まりドアが開かず、特殊な道具で救助する訓練など公開され、万が一の事態に備えました。

↓地震や津波により車内に閉じ込められた人を救助する自衛隊員

